

校長室より

「二松から飛翔へ」

二松学舎大学附属高等学校

校長 鶴飼敦之

全学年保護者会

13日(土)の週末、午後になり気温も上昇し、夏の気配を感じさせる陽気の中、本年度第1回目の全学年保護者会が開催されました。1年生の保護者の皆さまにとっては、初めての学校での保護者会となり、昨年、学校説明会で来られた時とはまた、違った眼で学校を感じていただけたことでしょうか。2・3年生は原則クラス替えもあり、新たな担任の先生との初顔合わせ。どんな学級経営をしてくださるのか期待をもって足を運んでいただいたことと思います。3年生は、保護者会に先立ち進路説明会が開催されました。今後の1年間の進路のスケジュールや入試の仕組みなど benesse の担当者と進路指導主任からの説明を熱心にメモを取りながら聞いている姿が多く見られました。説明会では、冒頭、子供の育て方について、小児科医の本を参考に、私からお話をさせていただきました。保護者会で共有したい内容でもあり、抜粋をご紹介します。



3年生進路説明会

校長挨拶より抜粋

今年は桜が4月に満開を迎え、長く楽しむことができました。一斉に咲くソメイヨシノは、実はクローンで全く同じ遺伝子をもっています。江戸時代に植木職人の「接ぎ木」によって繁殖が繰り返され、今では日本全国に100万本以上、日本の桜の約8割近くがソメイヨシノだそうです。この花は、ソメイヨシノ同士の自然交配によって子孫を残すことはできないという性質をもっています。つまり、人間の手を借りないと増えない品種なのです。

人の手を借りるといふ面では、人間も親が子育てをしなければならないのと同じですね。

最近、小児科医が書いた子育ての本を読みました。「最高の子育て」という書籍です。

子供は親の遺伝子の多くを受け継いでいると述べています。顔つきや体形に関する事、また、体質に関する事なども遺伝の影響が大きいそうです。「トンビが鷹を生まない」といいますが、それを言ったら身も蓋もありませんね。しかし、医師によると遺伝子そのものは変わらないが、遺伝子が伝えるシナリオには「余白(ゆとり)」=フレキシビリティがあって、あみだくじのように複雑な過程で体格や性格などが形成されていくのだと説明しています。

この「余白」の部分左右するのが生活環境や習慣、教育などの行動パターンだそうです。環境をいかに整えるかが鍵になりそうです。

著者は、子育てに大切なこととは「自己肯定感」「意思決定力」「共感力」の三つを育てることと紹介しています。

「自己肯定感」は、日本人は外国人に比べて低いと言われます。「自分に自信がない、ダメな人間だと思う」と卑下する子供が多いようです。しかし、主体的に挑戦する姿勢をもつことが重要です。その為には、「やればできるようになる」という成功体験を積みさせるのがいいですね。そして「すごいね、できたね」と子供をほめることが大切です。このことによって自信をもち、前向きに物事を捉えようとする力が育くまれるのでしょう。

次に「意思決定力」=自己主張する力を身に付けさせること。自ら考え、判断し、行動する力が求められています。人生は様々な選択の繰り返しですが、最後は「自分が決める」という自覚を育てたいですね。大学受験も一緒です。自ら決定させると同時に自己責任について考えさせたいものです。

最後が「共感力」=人を惹き付ける、魅力ある人物になること。誰かの気持ちに寄り添える気持ちが信頼できる人となるのです。本校の校訓である「仁愛・弘毅」にも通ずる考え方でしょう。子供との会話ではカウンセリングマインドでいう「傾聴・受容・共感」の姿勢が大事なかもしれません。

受験に向けて、親子の会話が重要になってきます。これらの力を育むことを意識して、子供とのキャッチボールを大切に過ごしてください。

